

2020年6月29日

学校法人三幸学園
千葉リゾートアンドスポーツ専門学校
校長 萩原 知子 殿

学校関係者評価委員会
委員長 比佐 央

学校関係者評価委員会実施報告

2019年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 比佐 央 (有限会社フィットネスアポロ社 営業部統括)
- ② 六島 丈治 (株式会社リラックス 人事部マネージャー)
- ③ 大村 脩登 (第11期卒業生)
- ③ 富永 隆幸 (飛鳥未来高等学校 千葉キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2020年6月29日 (会場 千葉リゾートアンドスポーツ専門学校 402教室)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2019年度 学校法人 三幸学園 千葉リゾートアンドスポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 清洋介

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 比佐央

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・人間性を高めるための教育実践

「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真の社会に役立つ人材輩出することができると考えている。

・高い現場力の醸成

現場で活躍するための基礎力を資格・検定取得をベースに各学科で重点項目として掲げ、指導内容の統一を行うほか、学科会・教科会を実施することにより、進捗状況の確認と教育の質の向上を実現できるよう計画している。

② 学校関係者評価委員会コメント

・大村委員：(スポーツトレーナー科について)卒業して改めて専門性の必要性並びに人間性を高められた。

このような取り組みがあったお陰だと理解できた。

・比佐委員：(スポーツインストラクター科について)人柄が一番大切。特に言葉遣いやコミュニケーション力

先生に敬語を使うのはもちろんだが、友人同士で敬語を使いあう授業もあっても良いのではないかと思う。

・富永委員：進学する学校がこのような取り組みをされていることを教職員に伝え専門性と人間性が成長できる学校に送り出したいと思う。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

①課題

- ・教育理念である、「技能と心の調和」の必要性をより生徒が理解し、日々の学校生活で実践する必要性がある。
- ・挨拶やインターンシップでのコミュニケーションなどが課題として上げられる為、業界の即戦力となるように生徒指導やインターンシップ実習を通して、強化していく。
- ・社会的ニーズ・業界に求められる人財に対し、教育目標・人材教育を設定。ただ、変化させるもの・変化させないものを見極めをすること。
※業界(関係団体)との関係性の強化を図ると共に、業界の正確な把握に努める。

②今後の改善方策

- ・入学前の初期教育研修にて将来像や目標を明確に設定し、入学後の学校生活の意識向上を図る。
- ・業界人講話を実施し、技能と心の調和に紐付ける講話を実施する。
- ・保護者への定期的な連絡、文書などによる学校状況の報告を通じて教育内容の理解を促進。

③特記事項

- ・教育理念、目標、人材育成像を体系化し全教職員への浸透を図っている。
- ・入学後、保護者へのご挨拶の電話掛けを実施し、信頼関係を構築している。

④学校関係者評価委員会コメント

- ・六島委員：(スポーツインストラクター科について)貴校の生徒は挨拶がしっかりできている。入社してからの社会人教育の研修が必要ない。
- ・大村委員：(スポーツトレーナー科について)社会人になりパソコンスキルの低さを感じている。選手のデータ管理等使用する機会が多い。学生時代にスキルを身に付けておくことも社会に出て改めて感じる。
- ・比佐委員：(スポーツトレーナー科について)ワード・エクセルが使用できるのは基本であるが今後新入社員にはパワーポイントを使いこなせる技術が求められる。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

①課題

・情報システム化による業務の効率化に取り組んでいるが、個々で活用しきれていない状況。情報システム化によるメリットや取り組んだ結果の実感(成功経験)を図ることが課題である。

※情報システムを活用した情報共有等による業務のスリム化とスピードアップが必要。

②今後の改善方策

・導入した情報システムツールの活用頻度を上げ、活用することが当たり前の環境を作り出す。

※生徒、教職員への情報伝達ツール「SankoGate」の活用頻度を上げる。

③特記事項

・2015年4月三幸学園システム推進室設置により、グループウェアの活用がより効果的・全社的に遂行できるようになった。

・年に3回の全教職員会議を実施し、運営方針の浸透・情報共有を行っている。

・コンプライアンス委員会を発足させ、より法令順守を意識していく。

④学校関係者評価委員会コメント

・六島委員:(スポーツインストラクター科について)入社した新入社員研修では SNS の利用について時間をかけ指導している。特に個人情報の漏洩には厳しく指導している。

・比佐委員:(スポーツトレーナー科について)コロナ禍でもありリモートでの業務が増えてきている。今後はリモートを使いこなせるインストラクター・トレーナーが必要とされる時代が来ている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

①課題

- ・資格取得カリキュラムの体系的な位置づけは業界側からの意見として、資格取得状況は現場での評価や勉強する姿勢など評価できる部分なので就職先とリンクした指導が必要。
- ・社会人育成の場としてコミュニケーション能力、礼儀、言葉遣いなど人間力を醸成させる指導が必要。

②今後の改善方策

- ・定期的に外部からの評価を行ってもらう。
- ・就職先のアンケート・評価を行うことも検討していく(入社前・入社後のアンケート)
- ・多数の資格の動機付けや意識付けの期間を設けて学校全体での意識改善が必要 具体的な検定週間や集中講義や補講などを行うよう改善していく。

③特記事項

- ・平成 26 年度より学生による授業評価の見直しが完了。また、実習先(企業)と実習生(学生)による相互評価を実施している。
- ・総合演習や業界論などを通じて、業界の講師においてさらなるキャリアラダーの構築を行う。卒業後のフォローが必要な職種もあるので卒業生サポートも必要である。

④学校関係者評価委員会コメント

- ・比佐委員：(スポーツトレーナー科について)新入社員に10時集合と伝えたと10時ジャストに出勤する社員が多くなってきており、10分前に来る社員が少なくなってきているように感じている。このような社会人の時間管理も指導が必要と感じる。
- ・六島委員：(スポーツインストラクター科について)社員研修を毎年会社のメンバーで行っていたが、今年から外部の講師を招いて研修をしている。社員の変化も感じてきている。
- ・大村委員：(スポーツトレーナー科について)学生時代にも学んだが社会に出てビジネススキルの不足を感じることもあるので学生時代から身につけておけばよかった。

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

- ・資格取得率の向上。
- ・退学者の低減。
- ・卒業生の社会的活躍の情報収集と教育活動への反映。
- ・退学理由をより詳しく分析して、対策を考えていく。

②今後の改善方策

- ・資格取得への動機づけの強化、教科会の実施。
- ・退学者プロジェクトに基づき、クラス報告会の実施と退学防止事例の共有を実施。
- ・就職ガイダンス、就職決起大会の中で卒業生講話を実施。
- ・最初に行うスタートアッププログラムでいかに意識づけさせる事が出来るかで変わってくる。
- ・マンネリ化しない授業の展開。よりアクティブラーニングを実施していく。

③特記事項

- ・退学率低減プロジェクト設立。
- ・卒業生支援。人材バンクの設置。全国姉妹校との情報共有と合格率向上のために全国模試の実施。

④学校関係者評価委員会コメント

- ・大村委員：(スポーツトレーナー科について)資格を取得するメリットや意識付けを強化する必要があると思う。外部と触れ合う機会を多く学生時代から作り、資格の必要性を感じる事が大切と感じる。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

①課題

- ・卒業生との連携強化及び支援体制の強化。同窓会Linkの浸透と定期的な配信が課題である。
- ・保護者への情報共有と協力体制の構築。情報共有ツールとしての、SANKO GATEの周知・浸透。

②今後の改善方策

- ・同窓会SNS「三幸リンク」の活用とそこからの情報発信。
- ・定期的な保護者への連絡を実施、学校行事等の見学機会を設定。
→総合演習Ⅲを通して保護者、業界企業へ学びをアウトプットする機会を作る。
- ・課外活動、ボランティア活動中の緊急対応マニュアル作成。
- ・緊急時に学生に発信できる連絡アプリを積極的に活用する。

③特記事項

- ・卒業生同窓会に力を入れており、アスレティックトレーナー専門のFACEBOOKを運用中。
- ・カウンセラーの設置、学生の希望により定期的に話をすることができる環境がある
- ・学生の経済的側面に対する支援体制として、奨学金や各種教育ローンを設けている。
- ・学生の生活環境への支援としては、提携している寮等の案内がある。

④学校関係者評価委員会コメント

- ・富永委員：高校は進学させるだけでなく、その先まで見据えた進路指導をしていきたい。学生の学生生活の体制・就職体制・卒業生への支援体制等進学させる学校の内容を高校教員にも伝え進路活動に活かしていきたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

①課題

・更に質の高い教育をめざし、教育環境・体制を整備する。

②今後の改善方策

- ・社会のニーズに対応した職業教育を行うべく教育ツールを企業と連携して開発、整備する。
- ・振り返りをした上で防災訓練を実施する。

③特記事項

- ・2020年度、実技教室(トレーニングルーム・コンディショニングルーム)内の機材を入れ替えた。
- ・Wi-Fi環境の整備。

④学校関係者評価委員会コメント

- ・六島委員:(スポーツトレーナー科について)インターンシップ実習生徒を受け入れオイルマッサージもできるようになって実習や社会人になると良いと思う。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題

- ・学生募集活動は適切に行っているが、入学後の学生状況や進路状況をタイムリーに高校へ伝えられていない。
- ※今後も入学前と入学後のギャップを軽減できるよう、取得資格や就職業界について説明をしていく。

②今後の改善方策

- ・首都圏地区の広報をサポートする首都圏広報室と情報を随時共有し、高校訪問にて学生の出身高校の先生方に状況を伝えてもらう。また、AO入試や特待生入試等の入試方法について誤解を招かぬよう、説明・対応に努めて行く。

③特記事項

- ・学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている。
- ・学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している。
- ・高校進路指導室への訪問も行っている。

④学校関係者評価委員会コメント

・富永委員：飛鳥未来高校からの入学希望者が毎年いるが、募集活動は適正だと思われる。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

②今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

①課題

・更なる法令遵守の推進。

②今後の改善方策

・会議や掲示物等を通じて、すべての職員に法令順守に対する啓蒙を積極的に実施していく。

③特記事項

・2014年度自己評価結果より公開を開始。

④学校関係者評価委員会コメント

・富永委員:法令順守に対する啓蒙を積極的に実施してほしい。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

①課題

・地域や一般の方に向けた公開講座が少ない。

②今後の改善方策

・地域を巻き込んだ学内フィットネスクラブの実施(総合演習Ⅲ)。地域の方に参加していただき良き関係を築く。

③特記事項

・地域イベントへボランティアとして参加。

・各種大会、行事でストレッチブースの設置。

④学校関係者評価委員会コメント

- ・六島委員：(スポーツインストラクター科について)渋谷区で区民向けのスポーツイベントを行っている。
そういった地域イベントで学生にボランティアのサポートをしてもらえるとありがたい。
- ・比佐委員：(スポーツトレーナー科について)学内フィットネスの施設を改善⇒卒業生も使用できる⇒卒業生が顧客を連れてくるこのような取り組みを実施したらよいと思う。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教育内容・育成目標は明確化されており、教職員が一丸となって取り組むしくみとして教務を体系化しているが資格試験への動機づけ、入学前の初期教育の浸透が今後の課題である。

2020 年度教務目標

- ・生徒満足(授業、行事、実習、就職)の充実、愛校心(帰属意識)を持った生徒の育成を目指す。
 - 1) わかりやすい授業(資格取得の合格率アップ)
 - 2) 挨拶・清掃(徹底・継続・やり切る)
 - 3) 愛校心(アウトプットする環境・成長)上記の点を踏まえ、実践力の醸成を目標とする。